

**主 題：証明されたメサイア****聖書箇所：ペテロの手紙第一 2章22-24節**

今朝のみことばは「ペテロ第一の手紙2：22-24」です。ペテロは救いに与ったひとり一人が主を模範として歩いていくようにと教えるのです。たとえ、あなたがどのような社会的地位にあらうと、どんな立場にあらうと、だれであらうと、救いに与ったひとり一人は主の模範に倣って歩いていくようにと言います。そのことを教えるペテロは、私たちが模範とするべきイエス・キリストがどのようなお方だったのかを改めて教えるのです。今日のみことばの中でペテロはイエス・キリストはこのようなお方であったと三つのことを教えます。

一つ目はイエス・キリストには罪がなかった、罪のないお方であるということ、二つ目はこの方は罪の赦しをお与えになる方であるということ、そして、三つ目はこの方は罪人を新しく生まれ変わらせることができるお方であるということです。

**☆イエス・キリストこそ私たちの模範****1. 主イエス・キリストは罪のないお方である 22-23節**

2：22「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。」、キリストは行いにおいてもことばにおいても罪がなかったとペテロは教えます。

**1) 行いにおいて**

「キリストは罪を犯したことがなく、」と行いにおいてイエスはすべての点において聖く正しかったということを言います。もちろん、そのように言うとき多くの方はこう言うでしょう。「聖書はイエス・キリストのことを教えているのであって、イエス・キリストの悪いことは書かないですよ。」と。でも、聖書は歴史を語っています。その時に起こったことをその通り語っています。ですから、イエスだけでなく、様々な人々がこのことについていろいろな証言をしています。

**ピラト**：たとえば、イエス・キリストを十字架につけるために裁判を行ったピラトという裁判官、この人物はイエス・キリストを調べた上で判決を下します。彼がどんなことを言ったのか？ヨハネ18：38に「ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。」と書かれています。調べたけれどもこの人のうちに私は罪を認めないと言います。クリスチャンでもなかったこのピラトは与えられた責任をしっかりと果たすのです。

**イスカリオテのユダ**：イエス・キリストを裏切ったイスカリオテのユダはどうでしょう？彼は銀貨30枚でイエスを売ります。3年近くイエスと寝食を共にしながら最終的に彼はイエス・キリストを裏切ったのです。では、この人物がイエスのことを何と言っているのか？イエスを売った後、銀貨30枚を手にして祭司長・長老に返したとき、彼の心の中には大きな後悔が襲いました。彼はこんなことを言います。「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして」…」（マタイ27：4）と。皆さんよくご存じのように、「それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつた。」（マタイ27：5）と書かれています。彼はイエス・キリストのうちに罪がないことに気付いています。でも、悲しいことに、その方に罪の赦しを求めなかったのです。少なくとも、ユダでさえイエス・キリストには罪がないことを証言しています。

**パウロ**：イエスの弟子たちもイエスについてこのようなことを記しています。パウロは「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」（Ⅱコリント5：21）と言っています。「罪を知らない方」、それがイエス・キリストだと言います。全く罪と無縁のお方です。

**ヘブル書の記者**：ヘブル書を記した著者もこう言っています。ヘブル4：15「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」、感謝なことにイエスは私たちのすべてを理解してくださっています。ただ一つだけ私たちと違う点は「イエスは罪を犯すことがなかった」ことです。あなたの痛みも孤独感も悲しみも、あなたが経験する様々な辛さもすべて分かってくださっているのです。そんなお方が神であるということは幸いなことです。私たちのことをいちいち説明しなくてもいいのです。すべて分かってくださっているのです。そして、同情してくださり助けをくださるのです。そして、私たちの心を喜びと平安で満たしてくださるのです。すばらしい私たちの主です。このヘブル書の著者は7：26でも「また、

このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私たちにとってまさ

に必要な方です。」と記しています。

**ヨハネ** : また、イエスが特に愛されたヨハネはどうでしょう？「キリストが現れたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」(Iヨハネ3:5)と述べています。

ですから、こうして弟子たちもイエス・キリストについて彼のうちには罪が全くなかったことを証言するのです。

**ペテロ** : 今日のテキストIペテロ2:22をご覧ください。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも」その後「見いだされませんでした。」という動詞が続いています。この「見いだす」ということばの前には否定語が付けられています。「見いだす」が意味することは「慎重に注意深く綿密に調べた後の結論」です。ただ何となく私はこう思うとか、このように感じるということではなく、綿密に調べた上でこの結論に達したということを行っているのです。

ペテロもヨハネもそうでした。イエス・キリストとともに3年以上生活を共にして来た上で辿り着いた結論、それは「この人のうちには罪がない、この人は神に逆らった行い、神が嫌われる行い、神が憎まれる行い、それらがいっさいない」ということです。そのことを証言したのです。

**イエス・キリストご自身** : そして、イエスご自身はどうだったか？こんなことをヨハネ8:46で言われています。「あなたがたのうちだれか、わたしに罪があると責める者がいますか。…」と。非常に興味深いことは、イエスがこのように言われたときにだれも反論できなかったということです。先に見て来たように、裁判官がイエス・キリストを調べても「この人のうちには罪がない」と述べています。だから、群衆が「イエス・キリストを十字架につけろ」と叫んだのに、裁判官は何度調べてもこの人にうちには十字架に該当するような罪はないと言うのです。

驚くべきことは、聖書の中を見たときに「イエス・キリストは確かにこのような罪を犯されました。このような神の律法に逆らうようなこと、神がお喜びにならないようなことを行いました。」と記されているところはありません。今見て来たように、このことを証言したのはイエスの弟子たちだけではありません。裁判官も、イエスを裏切った人物も、そして、イエスご自身もそのように証言します。

私たち人間は人前ではうまく振舞うことができる者です。でも、家に帰ればそこには素の自分がいます。家族はそれを見てあるときは失望を覚えるでしょう。人々の前での姿と家族の前での姿が違うからと…。たとえば、教会で立派なことを話しても家に帰れば全く違うと、それは失望だけをもらいます。そして、それは神は私たちを変えることができない存在だというメッセージを無言のうちに伝えていることとなります。そういう二面性をもっていても構わないというメッセージを伝えるのです。

このように証言した人たちは、私たちが見る限りでは、イエスの普段の歩みを見ていた者たちが含まれていました。毎日の生活を通して、朝起きてから眠るまで、この人はどんなことを為さったのか？そのことをよく知っている彼らが辿り着いた結論が「この人には罪がない」でした。

## 2) ことばにおいても

行いだけではなかった、ことばにおいても「その口に何の偽りも見いだされませんでした。」と書かれています。3年以上イエスとともに過ごしたペテロの証言です。ことばにおいてもこの方は正しく聖く完全であられたと、そのように結論付けるのです。悲しいことに、私たちはことばで失敗をする者です。失敗したくないと願っているが、「あんなことを言わなければよかった」とか「このように言わなければよかった」とか、ことばで失敗しそれを後悔する者です。ヤコブが言うように「私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。」(ヤコブの手紙3:2)、ことばでいろんな罪を犯す私たちです。人のうわさをします。「聞いた？こんなこと…、あの人はね…」と、しかも、そういうことを言うのはそのことに関心のある人が多いからです。ですから、なぜこんなにゴシップが広がるのか？なぜ人々はそういうことを伝えるテレビなどを見るのか？関心があるからです。また、それを聞いた者はだれかに伝えていきます。人の悪いことを伝えることは愛ではありません。「愛」はその人を守ります。でも、私たちは実生活でことばでいろいろな罪を犯しています。私たちの語っていることを聞いておられる神は、私たちの会話をどのようにお思いになるでしょう？

どんなに信仰歴が長くても、信仰の先輩として教会でどんなに奉仕をしていても、悲しいことに、私たちの口から発することばは神の前にふさわしくない、恐らく、ここにおられるすべての皆さんは、私も含めてことばにおいて失敗を繰り返して来た者です。そのように言えるでしょう。でも、主イエス・キリストはどうだったか？彼の「口に何の偽りも見いだされませんでした。」、「偽り」という名詞は「だ

ますこと」です。他人の持つ何か良いものをずるさや虚偽によって得たいとする願望を表すことばです。このことは2：1では「すべてのごまかし、」と訳されています。同じことばです。イエスのことばはそういうものではなかった、イエスのことばの中には人をだますようなことばは含まれていないし、虚偽

もないし、常に真実をお語りになっていました。

そのことをペテロは実例を挙げて説明しています。23節をご覧ください。「ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」、ペテロは実際に3年半イエスと生活を共にして来てこのような結論に達したのです。「ののしられる」ということばは現在形でしかも受け身です。ですから、イエス・キリストに対して人々はこのように接したということです。イエス・キリストをののしり続けたということです。そのときにイエスは「ののしり返さず、」とあります。未完了形です。これも繰り返された出来事です。ですから、人々はひっきりなしにイエスをののしり続けるのです。そのときにイエスは彼らに対して「ののしり返さず」でした。

「苦しめられても、」とあります。これも現在形が使われています。このことばは「苦痛や不快なことを経験させる」ということです。それはイエスがこの地上にお見えになったときに、ご自分が造ったその被造物である人間から大変汚いことばを掛けられ続けたことに示されています。前回も見たように、私たちが造られた神はご自分の国に来られたが民は受け入れなかった。ヨハネ1：11「この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。」と。神によって造られた私たちが造ってくださった神がこの世に来られたのにその方を歓迎しなかった。快く思わなかった。このみことばによれば、ペテロの証によれば、主イエス・キリストは地上にあって人々からの大変な苦痛や不快なことを経験し続けたにもかかわらず、彼はその中にあって「おどすことを」しなかったのです。

つまり、主イエス・キリストはどんなときでも父なる神がお喜びになることを行い続けたということです。主イエス・キリストは地上におられたときに何を望んでいたのか？ご自身がこう言われています。ヨハネ8：29「わたしを遣わした方はわたしとともにおられます。わたしをひとり残されることはありません。わたしがいつも、そのみこころにかなうことを行うからです。」と、つまり、父なる神がお喜びになることをイエスはいつも選択し続けたと言っているのです。ですから、人の悪に対して悪で応じることをしないで神が喜ばれること、すなわち、神の前に正しいことを常に選択しておられたのです。そのようにイエスは歩んだとペテロが証言するのです。

また、こう続きます。23節「正しくさばかれる方にお任せになりました。」、人々が様々な形でイエスに対して悪を為したときに、イエスは「正しくさばかれる方にお任せに」なったのです。この「お任せになりました。」とは「委ねる」ということです。自分で何かをしようとするのではなく、すべてを神にゆだねるのです。「正しくさばかれる方に」とあります。「父なる神」とは書かないで「正しくさばかれる方」と神のことを記しています。つまり、イエスが為さったことは、人の悪に対して彼がそれにふさわしい報いを与えたのではなく、彼らに対するさばきは父なる神が約束されているそのさばきにお委ねになったということです。確かに、「神の正しいさばきの日が来る」ということは聖書が約束している出来事です。

憶えていますか？イエスが山上の説教の中で話されたこと、マタイ5：11「わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。」、イエスは「わたしを信じたことによってあなたがたが人々からのののしられたり迫害されたり、また、ありもしないことで悪口を言われたりしたとき、あなたがたは幸いです」と言われたのです。これを聞くと驚きません。なぜ、このような辛いことが辛いなのか？その理由がその後に書かれています。12節「喜びなさい。喜びおどりなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。…」と。イエスが言われたことは「あなたがわたしの救いを受け入れてこの救いに与ったことによって、いろいろな問題を経験したでしょう。でも、心配しなくてもいい。わたしがちゃんとあなたにふさわしい報いを与えるから」と言われたのです。

ですから、私たちが人が行う悪に対してそれにリベンジしなければいけないのか？神は「しなくてもいい、それは神がすることだから」と言われるのです。あなたがそんな中でも神の前を正しく歩んでいるなら、その歩みに対してそれにふさわしい褒美を与えるからと、そのように話されたのです。正しくさばかれるお方だからです。さばきの日が来るだけでない、さばきを下される神は正しくすべてのことをおさばきになるのです。この方は私たちひとり一人の行いに対してもことばにおいても正しいさばきを下されると聖書は教えるのです。

ヨハネ5：29には「善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。」と記されています。人間には二種類しか存在しません。善を行う者、つまり、神を心から愛して神を受け入れてこの救いに与った者たち、神の前に正しいことをしている者たち、もう一方

は神に逆らい続けている者たち、神が備えてくださった救いを全く無視して神を受け入れようとしない、神に背を向けて自分の好きなように歩んでいる者たち、この二種類です。善を行った者はよみがえった後永遠のいのちをいただきます。それが神の約束です。でも、神に逆らい続けて悪を行っている者たちは、よみがえった後どうなるのか？さばきを受け、その後は永遠の地獄が待っていることを聖書は教えています。ですから、すべての人間に共通していることは「死んだ後よみがえる」ことです。よみがえった後、祝福の中に入るのかのろい、さばきの中に入るのか、そのどちらかです。あなたの行いのすべてをご存じの神は、それにふさわしい報いをお与えになります。

また同時に、ことばについても神のさばきがあることを教えています。マタイ 12 : 36 「わたしはあなたがたに、こう言しましょう。人はその口に作るあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。」と。あなたが口にしたことばについても神の正しいさばきが下るということです。なぜなら、神はそのすべてをご存じだからです。私たちは何一つ神の前に隠しおおせるものはないので

す。私たちの行動だけでない、私たちのことばだけでない、私たちが想像することも考えることも、だれも見えていないと思っても神はすべてのことをご覧になっているのです。だから、神なのです。

そこでペテロはこの神について、この方は正しくすべてのことをさばかれるお方であると言います。ですから、イエスはこの地上におられたとき、人としてすべてのことを父なる神にお任せになったのです。そして、イエスはあらゆる状況にあつて父なる神がお喜びになることを選択したのです。それがペテロが表現したことです。

皆さんに見ていただきたいことは、確かに、イエスは人々からののしられた、ののしられ続けた、また、人々から苦しめられ続けた。私たちは聖書を見るときに、イエスがどんな仕打ちを受けたのか、そのことを見て取ることができます。そのすべてに対してイエスは父なる神にお任せになったと。勘違いしてはならないことは、この主にさばきを下す権利も力もなかったからではないということです。主イエス・キリストは人々の悪に対して、その人に対してさばきを下す権利も力もお持ちです。なぜなら、イエス・キリストはさばきを下さるお方だからです。父なる神はこのように言っておられます。ヨハネ 5 : 22、27 「:22 また、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。」、確かに、最後の審判のときには父なる神がそこに関与しておられます。でも、主イエス・キリストも同じように関与しているのです。「:27 また、父はさばきを行う権を子に与えられました。子は人の子だからです。」とある通りです。また、使徒の働き 10 : 42 でも「イエスは私たちに命じて、このイエスこそ生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によって定められた方であることを人々に宣べ伝え、そのあかしをするように、言われたのです。」とあります。

弟子たちが語ったメッセージは何だったのか？このイエス・キリストこそが人々にさばきを下されるお方ということです。そのことを弟子たちは語り続けたのです。主イエス・キリストが十字架に磔にされたときにイエスは、天からの火をもって彼らを滅ぼし尽くすことはできたのです。イエスの手に足に釘を打ち込んだローマの兵士たちに対して、イエスには罪がないにも関わらず十字架に磔にするように人々を扇動して自分たちの願いを叶えた連中、宗教家たち、そして、十字架に架かったイエスを見て嘲笑っていた多くの人々に対して、イエスはその瞬間に天から火をもって彼らを滅ぼし尽くすことができたのです。そして、ご自分こそが真の神であることを人々の前に示すことができたのです。

憶えておられますか？最後の晩餐の後、イエスは弟子たちを連れてオリーブ山に移動しました。ゲッセマネの園で主イエスは祈っておられました。何度か祈った後、イスカリオテのユダを先頭に群衆がイエスを捕えるためにやって来ました。そのときにペテロは剣をもって大祭司のしもべの耳を切り落としました。ルカ 22 : 50 「そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、その右の耳を切り落としました。」、51 節「するとイエスは、「やめなさい。それまで」と言われた。そして、耳にさわって彼をいやされた。」と記されています。そのときにイエスが非常に興味深いことを弟子たちに話されました。マタイ 26 : 53 「それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。」と。つまり、イエスは「わたしが願えば、今このローマの軍勢よりも遥かに力のある天使たちが遣わされて、この人たちを一網打尽にすることは容易いことだ」と言われたのです。なぜなら、このお方は神なのです。どんなことでもお出来になる神です。

ですから、イエスが十字架に磔になったとき、その光景を見て嘲笑っている連中をその瞬間に滅ぼすことが出来たのです。でも、イエスはそのようには為さらなかった。却って、彼らのために祈られました。ルカ 23 : 34 「そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。」と。この人たちは憎しみをもってイエスを十字架に磔にしました。その願いは叶ったでしょう。でも、十字架に架かったの

はイエスの意志でありそれが神の計画であり、その十字架によって罪人に対して、全人類に対して完全な救いを備えること、それがイエス・キリストがこの世に来られた目的だったのです。

ですから、イエスが祈られたときに「彼らは分かっていない。なぜ、罪のないわたしが自分から十字架に架かっていくのか？なぜ、わたしがこうして十字架の上でいのちを捨てようとしているのか？その意味が全く分かっていない。ゆえに、神さま、どうか彼らがそれを知ることが出来るように。」と、十字架の上にあってもイエスの関心は自分のことではなく、そこにいる人々のことでした。彼らを滅ぼすことができたにも関わらずそのようにされず、すべてのことを父なる神に委ねて、彼らのために祈られたのです。その理由はもう皆さんご存知ですね。主イエス・キリストは罪人をさばくためではなく罪人を救うために来てくださったからです。

イエス・キリストを「十字架につけよ！」と叫んだ連中のために、イエス・キリストを十字架に追いやった人々のために、釘を打ち込んだ者たちのために、そこにいたすべての者のために、そして、私たちのためにイエス・キリストは来てくださり、イエス・キリストは十字架で死んでくださった。それがイエスがこの世に来られた目的だったのです。ペテロはそのことを私たちに伝えるのです。すべてのことを父なる神にお委ねになったと。そして、イエスは私たちのためにすばらしい救いを備えてくださったのです。

## 2. 罪を赦されるお方 24 a 節

2 : 24 「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。」、この箇所が私たちに教えることは「自分から」ということばです。イエスが十字架に架かったのは無理やりではありません。ご自身の意志に反して人々が無理やりイエスを十字架につけたものではありません。「ご自分から」十字架に架かって行かれたのです。なぜなら、それがイエスがこの地上にお見えになった目的だったからです。そして、イエス・キリストはあなたの罪を赦すために十字架に架かってくださったのですが、この24節にはイエスがあなたのために支払ってくださった二つの大きな犠牲が記されています。

### ☆イエス・キリストが私たちのために支払われた犠牲

#### 1) あなたに代わってのろわれた者となること

「十字架」ということばを見てください。「十字架」と訳せるギリシャ語は新約聖書には27回出ています。しかし、ここではそのことばが使われていないのです。日本語では「十字架」と訳してそれは正しいのですが、ここで使われていることばは厳密に言うと「十字架」ではなくて「木」です。

「木」という名詞が使われているのです。なぜ、ここで敢えて「木」ということばを使ったのか？それはペテロ自身が読者たちに伝えたいことがあったからです。「木」に掛けられる、「木」につけられる、そのことばを聞いたときに多くのユダヤ人が思い出したのは旧約聖書の中のことばです。

申命記21 : 23に「その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならぬ。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。…」とあります。「木につるされた者は、神にのろわれた者」、ペテロが教えたかったのはそのことです。イエス・キリストは木につるされたのです。イエス・キリストは木に磔にされたのです。その木は確かに十字架です。木の上で、木につるされるといふことで、何とイエス・キリストは「のろわれた者」となったとペテロは言うのです。ペテロだけでなくパウロのそのように言っています。ガラテヤ3 : 13「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちが律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてののろわれたものである」と書いてあるからです。」と。イエスはのろわれた者となられたのです。

のろわれた者とは「罪の赦しを拒み、神に逆らい続けている者」です。ということは、私たちすべては生まれながらに神にのろわれた者です。なぜなら、私たちは生まれながらに創造主なる神を信じていないからです。この世ではクリスマスが済むとすぐに初詣の話題に移ります。多くの人たちはどこに行ってもだれを拝むかなどはどうでもいいことで、何かに手を合わせることに意味があるとします。でも、考えてみると、私たちが手を合わせている対象は創造主なる神ではありません。かつての偉人であったり動物であったり、人間が作ったものであったりします。人間は絶対に創造主にはなれません。動物もそうです。人間が作った像もどんなに美しくても創造主にはなれません。神というのは創造主です。この世界のすべてのものをお造りになった方です。

悲しいことに、私たちは生まれながらにそのことを信じていませんでした。だから、神は私たちに対して「のろわれた者」と言われます。でも、今見て来たように、イエスがのろわれた者であるということ、なぜそのようなことが有り得るのか？ペテロが言ったように「イエスは行いにおいてもことばにおいても罪が一つもなかった」、のろわれた者は私たちでイエスではなかったのです。イエスは神に喜ばれる方でした。では、なぜ彼はのろわれた者になったのか？イエスはのろわれているあなたの身代わりとなったということです。イエスがどんな犠牲を払われたのか？すべてにおいて聖く正しいお方があなたに代わってのろわれた者となられた、こんな犠牲をイエスは払ってくださったのです。

## 2) 身代わりの刑を受けてくださった

「私たちの罪をその身に負われました。」、あなたの身代わりにあなたが受けるべき刑をさばきを受けてくださったということです。「罪を負う」の「負う」という動詞は「上に運ぶ、供え物を祭壇の上にささげる、罪を自分の身に負う」という意味を持ったことばです。これらのことから分かるように、このことばは旧約のいけにえの用語です。ペテロは敢えてそのことばを使ったのです。ペテロが旧約聖書に記されているいけにえに関することばを使おうとしたのは、そのことによって主イエス・キリストの死が、十字架の死がもつ贖いの意義を強調しようとしたのです。旧約の時代において人々は自分の罪をいけにえの動物にすべて負わせたのです。そして、動物がその人の身代わりとなって死んだのです。そのようにして人々は自分の罪を神の前に赦していただいたのです。

ここで使われていることばはまさにそのことだったのです。ただ、ここで言われていることは、私たちの罪を負われたのは羊ではなかったのです。私たちの罪を負ってくださったのは、全く罪ないこの世に人として来てくださった創造主なる神です。私たちの身代わりにご自分のいのちをささげてくださったのです。ゆえに、私たちの身代わりだからこの方は罪をもっていないはならなかったのです。

私たちの身代わりとなるためにその方が有罪であるなら私たちと同じです。無罪だからこそ身代わりになれたのです。ですから、ペテロは教えるのです。イエス・キリストのうちには全く罪がなかった、だから、この方は私たちの身代わりになることが出来たと。人間の中には罪を犯していない人はだれもいないからです。ローマ3：23「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」、3：10「義人はいない。ひとりもない。」、例外なしに私たちはみな神に逆らっていたのです。ですから、罪のない方、つまり、神が人としてこの世に来てくださったのです。

皆さん、イエスが十字架に架かれた、そして、そこで聖いいのちを犠牲としてくださった。考えてください。父なる神が十字架に架けられたイエスをご覧になったとき、その姿を見て「イエスだから手加減しよう」とそのように為さったかどうか？いいえ、手加減など為さなかった。なぜなら、イエスは私たちが受けるべきさばきを身代わりを受けたのです。そして、私たちが覚えるべきことは、神は神に逆らっている私たちに対して、罪人に対して、すべてを知っておられ私たちが造った神は、私たちの罪に対して怒りを持っておられるということです。

感謝なことに、その怒りはまだあなたの上に注がれていない、けれども、その日が来ます。感謝なことに、神は忍耐をもって一人でも多くの罪人が救いに与るようにと待ってくださっています。でも、あなたがそれを無視続けるなら、神に背を向け続けるなら、そのさばきはあなたの上に下るのです。イエスが十字架に架かったときに、神が私たちに持つておられたその怒りを神はイエス・キリストの上に注いだのです。神が神の怒りをお受けになったのです。そんなことが有り得るのでしょうか？しかし、この事実が私たちに教えることは、ここまでして、主は私たちのことを愛してくださっているということです。この犠牲の大きさを私たちは測り知ることができません。創造主が人として来て、私たちが受けるべき神の怒りを代わりに受けてくださった、そこまでして神はあなたの罪を完全に赦そうとしてくださったのです。こんな神がおられるのです。ペテロはそのことを私たちに教えるのです。「あなたが受けるべき神のさばきをこの方が代わりに受けてくださった」と。神は私たちの罪をキリストの罪と見なし、あなたをさばいたのです。イエスは何も罪を犯されなかったのに…。あなたの罪を負われたゆえに、あたかもキリストが罪を犯したかのように神はキリストをさばいたのです。

だから、ペテロは言います。「…キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」(2：24b)と。キリストが十字架でいのちを捨ててくださったゆえに、救いが設けられたのです。そして、このイエス・キリストを信じる者に「いやし」が与えられるのです。

## 3. 罪人を新しく生まれ変わらせる 24b節

「それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。」と、イエスが私たち信じる者にすばらしい祝福をくださる。それは「私たちが新しく生まれ変わる」ということです。新しく生まれ変わったクリスチャンたちは「罪を離れ、義のために生きる」と言います。「罪を離れる」とは「死ぬ」という意味です。

かつて私たちが支配していたその罪、私たちが束縛して自由を完全に奪っていたその罪、私たちはその罪に対して「死んだ」ということです。そして、「義のために生きる」と、新しい歩みが始まるのです。聖霊なる神によって力づけられた新しい歩みです。「罪に対して死ぬ」こと、罪がもたらしていた、また、私たちが恐れさせていた永遠の滅びから私たちが解放されるのです。そして、解放された私たちは創造された本来の目的に沿って生きる者へと変えられたのです。私たちはこの神のために、神が喜んでくださることを選択しながら生きるという新しい歩みを始めるのです。

でも、新しく生まれ変わるためにこのような祝福を神は私たちにくださるのですが、そのために私たちに必要なことは、みことばが教えるように「…キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたの

です。」と、イエス・キリストの十字架の贖いをあなたが信じることです。「あの十字架は私のためだった、私のためにイエスさまは十字架で死んでくださった」と。そして、その三日後によみがえって完全な救いを備えてくださった、このイエスを信じる者たちが神のいやしを経験するのです。どんな罪でも赦していただける、どんなにあなたが神に逆らって来たとしても、神はあなたを赦して新しく生まれ変わらせてくださるのです。それが救いに与る者たちに神が約束された祝福です。

これまで神に逆らい続けて来た方、今もそうかもしれません。もしそうなら、神に逆らい続けるその罪を神の前に心からお詫びすることです。そして、あなたの身代わりに十字架で死んでくださり、あなたが受けるべき罪のさばきを代わりに受けてくださったイエス・キリストを、あなたの神として、あなたの救い主として信じ従うことを今決心することです。なぜなら、その時に主はこの救いを与えてくださるからです。もし、まだこの救いに与っていない方がおられるなら、今日があなたの救いの日となることを願います。主は忍耐をもってあなたを赦そうと待っておられます。その救いを心から感謝をして受け入れることです。主に従う者として歩むことを決心することです。

イエス・キリストを信じている皆さん、なぜ、ペテロはこの「イエス・キリストの模範」を記したのか？それはこの地上にあってイエス・キリストの証をするためです。「しもべたち」と記されています。奴隷の人々に対して「あなたがたは救いに与った、その喜びに祝福に与った、すばらしいことだ。だから、私はあなたがたに命じる。主イエス・キリストが常に父なる神のみこころに従ったように、そのように生きていきなさい。」と教えるのです。この手紙の2章、3章でペテロが教えることは「服従の大切さ、従うことの大切さ」です。救われている皆さん、あなたが今どのような問題を抱えているかわかりません。もしかすると、あなたはこの社会にあって、職場にあって、学校にあって不当に扱われているかもしれません。正しく評価されていないかもしれません。人々に認められていないかもしれません。どんなことを今あなたが経験していようと、そのすべてを主に委ねて従って行くのです。ちょうど、主がそのように為さったように…。すべてのことを主にお委ねして、あなたの責任は主に従い続けていくことです。そのことを私たちが実践するためにペテロはこの「主の模範」をここに記したのです。

救われている皆さんはそのようにして、イエスにお会いする日まで歩いていくことです。

まだ、救いを拒んでいる方は心を開いて、心からの悔い改めをもってこの救いを受け入れてください。そのことを心からお勧めします。